

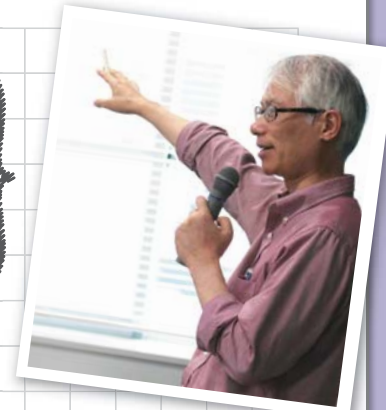


高野先生

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



【今回の授業】

資源・エネルギーの環境学

高野 雅夫先生（地球環境科学専攻・持続的共発展教育研究センター教授）

環境学研究科の設立まもない時期から続く名物授業。地球・都市・社会の3専攻の学生が講義を通して、持続可能な社会の鍵を握るエネルギーについて考えていく。「最終的には一人ひとりがエネルギービジョンをつくるのが目的」と高野先生。最後の講義の時間では2030年と2050年の日本の望ましいエネルギー構成を提案し、その論拠を示してグループ討論を行う。「エネルギーの使い方は国の政策で決まる。ならば、我々もその議論に参加して主体的にエネルギービジョンを提案できるようになろう。それが狙いです」。

そのために学ぶのは、エネルギーの物理学的特性から、地球科学的な資源の成り立ち、化石燃料、原子力、自然エネルギーなどの特徴とそれらに付随する技術的課題や環境問題、さらにエネルギーをめぐる世界情勢などなかなか広範囲だが、「文系、理系を問わず、授業をベースに自分の考えを深め、かたちにすることを面白く思ってくれている」と手応えを語る。自分とは異なる意見に触れるグループ討論も好評で、東北大地震以降、関心が高まったエネルギー問題を自分の問題として考えようと、受講生も増加している。



各自のエネルギービジョンを発表して意見交換。異なる意見に触れて、さらに自分の考えを深め最終レポートにまとめる。提出されたレポートは、「かなりいい」と高野先生も評価する。



西田 宏平さん
Nishida Kouhei

地球環境科学専攻
地球環境システム講座
博士課程前期1年

この講義では、これからの社会を築く私達が知っておくべきことをたくさん学びました。普段何気なく使っているエネルギーがどのように生み出されるのか。盛りだくさんのハッとさせられる情報に、集中して先生の話を聞きました。その後、自分が政治家になったつもりで将来のエネルギービジョンを作成。様々な専攻の人達と討論し、資源・エネルギー問題の理解を深めることができました。私はこの講義を通して、現在の社会に危機感を感じ、持続可能な社会を実現するために何ができるかを深く考えるようになりました。